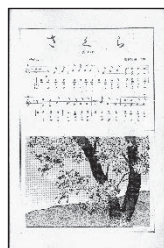
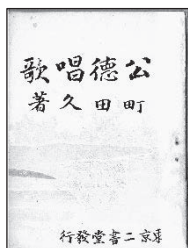


こうとくしょうか

#18 公德唱歌 2版

作者：町田久（まちだ・ひさ 生年不詳-1928）

刊行：明治34年（1901）



※左より、『公德唱歌』、『公德唱歌 第1集』、同左

♪ 解題

■ 内容

公德唱歌は明治時代、主に尋常小学校の修身科の授業で歌われた。

明治5年（1872）に文部省は「学制」を發布し、下等小学校の教科の一つとして「修身 解意」を示した。同年「小学教則」で「修身口授（ぎょうぎのさとし）」が下等小学校の教科として挙げられると、「修身」は道德教育の中心的な役割を果たす科目として、算術や習字と同じように学校で学ばれるようになった。

修身科の課程に「公德」の文字が用いられるようになったのは、明治33年（1900）に公布された「小学校令施行規則」からである。『新編修身教典 尋常小学校教員用』の「第二十三課 公德」には、「本課の目的」として「公共物、および、公衆に対する心得を知らしむ。」とある。また、教員が生徒に教授する際は、公衆衛生や時間を守るなどの「実例をあげ来りて、ことに、日常、これら、徳行の実践をはげますべし。」と記載されている。公德唱歌もこれに即した内容となっており、他人の庭の木になっている果物をとってはいけない、混雑する場所では互いに譲り合うなど、場面ごとに多くの具体

例が挙げられた歌になっている。

■ 作者

作者は町田桜園（本名：町田久（まちだ・ひさ））である。その経歴は不詳であるが、国立国会図書館サーチによると、作曲や編集として多数の唱歌集の刊行に携わっていることがわかる。『公德唱歌』の「はしがき」には「著者に音楽大家文學士等の肩書なきを侮りたまふな」等の記述が見られる。

■ 公德唱歌の公募

明治34年（1901）、帝国教育会主催の第3回全国連合教育会において、国民の公德養成を目的とした公德に関する歌詞、曲譜を製作することが決定された。「広く全国教育家に対して歌詞を募集」した結果、数十通の歌詞の中から田草川喜作氏の歌詞が選ばれ、田村虎蔵が作曲を行った。こうして出版されたのが『公德養成国民唱歌』であり、『公德養成国民唱歌 訂正版』は当館の唱歌コレクションを構成する1冊である。

♪ 類似の唱歌集

- ・『公德唱歌 第1集』渋谷愛作歌 1901 [SH767.7/26/1]
- ・『公德養成国民唱歌 訂正版』帝国教育会編 松聲堂 1903 [SH767.7/32]

♪ 参考文献

- ・『新編修身教典 尋常小学校教員用 巻3』普及舎編輯所編 普及舎 1903
※国立国会図書館デジタルコレクション（インターネット公開）で閲覧可
- ・『唱歌と国語』山東功著 講談社 2008 [375.76/5]
- ・『明治の音楽教育とその背景』前田紘二著 竹林館 2010 [375.76/7]